

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(西院幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・幼児理解を深め、主体的にかつ多様な経験ができる保育の在り方を検討実践していく。 ・親子で絵本の取組	・保護者からの聞き取り・幼児記録から事例検討。 ・アンケート項目「自分から遊びを見つけて楽しんで遊んでいる」 ・絵本ボランティア親子絵本貸出、絵本100冊 ・アンケート項目「絵本やお話が好きである」
	幼小接続の視点	・小学校と年度当初に年間の交流について依頼をし、事後の子どもたちの様子を文章で共有する。 ・公開保育・授業参観 ・保護者には、交流の意義を丁寧に知らせていく。 ・意欲的に取り組む子どもの育成	・幼児記録・事後の記録。 ・教員自己評価 ・アンケート項目「幼小連携ができている」
	心と体・生活習慣	・健康カードの有効利用と生活習慣の重要性の啓発 ・幼児運動指針に基づく体を動かす生活の推進・リズム遊び・公園などの活用	・健康カードでの生活習慣のチェック ・保育に意図的に入れているか
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・異年齢交流を通して、自己有用感や自己調整力を身に付けていく。 ・友達関係に着目して子どもの育ちを探る。	・幼児記録事例の検討 ・アンケート項目「気の合う友達がいる」「友達のことをよく聞いている」
	園内研修の充実(OJT)	・学期に2回の事例検討 ・公開保育 ・週案のねらいと反省評価の連動 ・年度末の成果物作成	・教員の自己評価 ・週案 ・友達関係に関するアンケート項目
	預かり保育の充実	・預かり保育内容の検討 ・保育者の連携 ・指導計画の改善	・預かり保育の参加状況 ・保育記録の改善と活用
	公立幼稚園の教育を理解してもらい、入園につながる子育て支援の充実	・未就園児クラスの広報(区役所・保育所など関係機関との連携を密にする)	・未就園児クラスの参加状況 ・保護者からの聞き取り ・幼稚園説明会の参加状況・アンケート



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年9月1日
	評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
アンケート項目「自分から遊びを見つけて楽しんで遊んでいる」95% ・幼児記録からは人とつながる力が弱く遊びが発展しないことが分かる ・絵本100冊は3人達成 ・アンケート項目「絵本やお話が好きである」80.5%	経験した遊びから発展して遊びが深まっていない ・子ども自身は絵本100冊に興味関心がある。保護者が文字を書くので啓発が大切。	・遊びの提案を引き続きしていく ・安心、自信をもって人とのかかわる心地よさを感じていくように保育実践を重ねる。 ・絵本100冊の意義を保護者に伝えていく
今年度前期は交流ができていない。 ・公開保育は2回実施 ・アンケート項目「幼小連携ができている」は80.5%	・交流はできていないが、年度初めに小学校と連携について話し合ったことが、公開保育への参加率を高めた。 ・保護者には幼小連携の意義が伝わっており、アンケートの指数は高い。	・数少ない交流を有効に子どもの育ちにつなげるため、事前事後の園内の話し合いを充実させる。 ・公開保育については、残る一回で参加者の一言アンケートなどをとり今後につなげる。
教育計画・週案からは、体を動かす遊びが少ないことが分かる ・健康カードと子どもの生活習慣結びついていない	・体を動かす遊びが少なく、基本的な動きどろ、走る、体を支えるなどの力が弱く、幼児運動指針がいかされていない。 ・保護者は健康カードをきちんとつけてくるが、それと生活習慣の改善とが結びつかない。	・教員の意識の高揚、保護者啓発の不断の努力が必要
「気の合う友達がいる」80.6% 先生や友達のことをよく聞いている」72.2% ・エピソードの検討は2か月に1回実施。	・エピソード検討によって子どもを多面的にとらえることができる。 ・異年齢交流についてはきょうだいグループをつくったことで、一人一人心がつながる異年齢交流ができていく。 ・友達関係は良好につながっている。	・今後もこのまま続けていく
・園内研修には意欲的に取り組んでいる。 ・週案の反省評価と次週へのねらいの連動の意識がもたれている ・友達関係は良好との見方がアンケートのそれぞれから70%以上、しかし、わが子が思いを伝えられていないと感じる保護者も多い。	・事例検討を意欲的にしているが、観点がふれてしまう。 ・週案についてはクラス経営やクラス全体のねらいという観点からの反省評価が出てきにくい。 ・人に思いが伝えにくいのはなぜか…分析は不十分。	・事例検討は、再度園内研修のテーマについて再確認しながら検討していく。 ・週案の反省評価・ねらいについても園内研修で見直していく。
・参加者数はほぼ横ばい ・保育記録は新形式に改善	・家庭で人とのかかわる機会は減っていることを考えると、もっと預かり保育を利用し子どもたちの育ちにつなげられると考える。 ・保育記録様式は改善したものの、担当者の意識が変化していない	・豊かな遊びの経験の観点から、預かり保育の有用性をさらに伝える ・保育、子どもの姿についての共有化
・未就園児の参加状況は毎回20名程度。教育相談は増える傾向にある。 ・保護者へのアンケートからは、未就園児クラスを増やしてほしいと要望	・支援課、児童福祉センターなどとの連携も密になったが、課題の多い子どもも増え、相談は増えている。 ・自園の保護者やホームページの広報だけでは限界がある	・自治連合会の力を借りて広報する。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月15日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・保護者自身も子どもとどのように遊ぶのかのかわり方が分からなくなっている。幼稚園で多様な経験をしていくことは重要	・絵本ボランティアなどの活動を今後も支援していただく
・卒園した保護者からの聞き取りやアンケートなどで、幼小連携があることの意義を確認してはどうか	・卒園した保護者、もとPTA役員などから聞き取りをする ・幼小中とつながることの意味を地域と共に啓発し、 ・講師のご紹介をお願いする
・今年度1学期の家庭教育講座で子どもの体について、京都市スポーツ少年団の方に講演していただいた。次年度も引き続きこうしたことは必要	
人とのかかわる力は重要、ぜひ幼稚園でたくさん遊んで友達関係を深めてほしい	・人とかかわる力を深めるためにももう少し園児数が増えるといい。広報や幼稚園の良さなどを折に触れ地域の若い世代に伝えたい
・先生方の頑張りは保護者アンケートからも見て取れる。 ・幼小中がつながり地域の子どもの育てている、幼稚園ではどのような素地を育てているのか公開保育を通して広く発信することは重要	・西院校園連盟を活かしつつ、その時々々の発達段階のなかで何を大事にするのか話し合えるといい
・保育の改善・充実や信頼関係・折り合い・自己肯定感の項目でもふれたように、社会状況から、幼稚園の預かり保育の中で、人とかかわって遊んでいくことは重要	・今後も預かり保育のボランティア等で支援していただく
・いつでもだれでも気軽に来れる幼稚園ということを粘り強く打ち出していく	・地域の子育てステーション事業・自治連合会と連携しながら広報を広くし、継続していく。

